

9時45分 カフェ街路樹にて集合

参加者名簿 次第(本日の流れ確認) 当日の配布資料

役割 講師 大東京信用組合 一名

受付(二名)(配布資料、参加費200円徴収)

カメラマン(二名) 簡易トイレ説明(一名) ガスコンロ説明(沖さん)

会場提供・お茶菓子準備(一名さん)

参加者の詳細は以下になります。

性別 男性 1人 女性 5人

配布資料 「地域交流の場ぽつぽつ 防災実技編」(次第)

「自助」行動ガイド帰宅困難になったら? (プログラム6の資料)

実際の状況を報告致します。

全体の様子



7回目の開催。天候は雨天でした。常連参加者は雨天でも参加します。参加者の防災意識が高い事が確認出来ます。

今回のテーマは『帰宅困難になったら?』と『①簡易トイレ②カセットコンロの実技編』になります。

災害はいつ起きるか分かりません。外出先で大規模な災害が発生すると帰宅できない事もあります。普段から持ち歩き用に災害グッズを入れておくと良い物を学びました。また前回学んだ「簡易トイレ」を実際にセットしてみることに。参加者から頂いた意見で「カセットコンロの使い方」も学ぶ事にしました。

本日の内容は、こちらになります。

「自助」行動ガイド

[3] 被災時の避難生活の為に防災グッズを準備しておく。

大きく3種類の準備が必要：

<1> 自宅内「在宅避難」への備え（日常備蓄）

<2> 自宅外「緊急避難」への備え

<3> 持ち歩き用（外出先で被災）

帰宅困難になったら？

むやみに移動せずその場にとどまろう

**発災後はむやみに移動せず
その場にとどまろう**

とどまる目安は、
救助・救命活動が優先される
発災後3日間程度

発災後は安全な場所にとどまり、家族の安否確認などをする事が重要です。

安全確保出来る場所は『災害時帰宅支援ステーション』を活用します。

『災害時帰宅支援ステーション』は原則として、帰宅困難者に水道水、トイレ、休憩場所等を提供できる場所になります。（コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、ファミリーレストラン等も同じ役割を担います）↓のQRコードより近隣の『災害時帰宅支援ステーション』を検索出来ます。

帰宅困難者に対する支援
災害時帰宅支援
ステーション



持ち歩き用（外出先で被災）

外出時に携帯すると良い物は、各自の都合に合わせて自分なりの『防災ポーチ』に入れます。
例として、

- 飲料水 □モバイルバッテリー □チョコレート □携帯トイレ □マスク
- LEDライト&ホイッスル □ウエットティッシュ □絆創膏 □ブランケット など

普段外出時に携帯する「防災ポーチ」について
<https://www.youtube.com/watch?v=P6mEE2AA-TI>



今回メインの企画になります。

<「自助」を体で覚えよう！！ 防災実技コーナー>

①簡易トイレの準備

②カセットコンロにガスボンベ装着し火をつけてみよう



交流会の様子



顔馴染みも含め、会話を楽しむ参加者さんの笑顔が見られるようになりました。
この時間が楽しみになって来る事も、この会の目的でもあります。
今回アンケートに「交流会」の満足度調査も行いました。結果は・・・。

今回のアンケート集計は以下になります。

・自由懇談について

満足 4名 普通 2名 やや不満 0名 不満 0名

→ ほっとしています。

・地域交流の場ぽつぽつ 防災実技編について

満足 5名 普通 1名 やや不満 0名 不満 0名

→ 案の定、実技があると実感が湧くのかなと感じます。

・外出時に既に持参している、今後持参予定を教えてください

飲料水 3名 絆創膏 0名 非常食 1名 携帯トイレ 1名

マスク 5名 身分証 4名 メモ用紙 3名 ホイッスル 2名

ウエットティッシュ 3名 LEDライト 1名 携帯ラジオ 1名

・地域交流の場 過去参加出来なかった・もう一度聞きたいがあれば。

災害時のアロマ 0名 火を出さない 1名 家具の転倒防止 0名 日常備蓄品 0名

トイレの備え 2名

・缶トイレ(蓋つき)とても良かったです。

・防災の事で分かってないこと良く分かって来ました。

・簡易トイレとポリ袋等、現物を目で見て触りながら体験出来たのが良かった。

・外出時の防災グッズ携行は有意義な学びだった。

今回、体験できる実技を実施しました。参加者の満足度が得られること改めて実感しました。
交流会では「防災グッズを購入したい」との声を多く頂いています。参加者の防災意識が高まっています。次に繋がる動きが出来たらと感じました。